

# 工業高校卒業生における継続的な学びの支援の在り方

## -卒業生に対する調査結果の報告第2報-

東京学芸大学 島田和典, 東京学芸大学元学部生 作田慶  
日本工業技術教育学会 中村豊久, 長田利彦, 豊田善敬, 石坂政俊

### 1. はじめに

本研究の目的は、教科工業を設置する高等学校（以下、工業高校）卒業生の継続的な学びに対する意識の把握である。本稿では卒業生に対して実施した学びの調査結果を報告する。

#### 1.1 継続的な学びの支援の必要性

近年の進学率の上昇、多様な職業・職種を勘案すると、従来から特定の産業分野の人材育成を目指している「専門高校(本研究では工業高校に着眼)卒業」＝「就職」の枠組みとは別の視点での進路指導の必要性が指摘できる。実際に現在の工業高校では、大学進学を視野に入れたコースの設置や、産業創造系といった新しい学科の設置が見られ、幅広い進路が想定される現状であることが認められる。卒業時のゴールを「就職」から「生涯キャリア※」という視点に置き換え、いわば「就職」をスタート地点として社会に送り出し、なおかつ進学者を含め就職者に対しても継続的な学びを支援するための高校・大学・社会の在り方を検討する必要がある。※ここでの生涯キャリアとは、職業を将来にわたり「持続可能」かつ「発展性」のあるものとしていくことを意味する(厚生労働省資料(2007)より)。

#### 1.2 卒業生の振り返りによる「学び」の追求

本研究では、社会で活躍している工業高校卒業生に対し、探索的に社会人としての学びに関する調査を実施することとした。先行研究では、文部科学省の委託事業(イノベーション・デザイン&テクノロジー株式会社)として実施された平成27年度「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」報告書があげられる<sup>1)</sup>。そこには、社会人に対して大学等での必要に応じた新たな学びに関する調査が行われ、社会人への継続的な学びの支援について議論されている。

本研究では、この調査内容の一部を援用し、その比較を試みることにした。また、高校時代の学びの有用性、社会人としての学びを率直に自由記述形式で問い、探索的に学びに対する意識の把握を試みることにした。

### 2. 方法

#### 2.1.1 研究①: アンケート調査

調査対象者: 工業高校を卒業した5年～30年程度の社会人, 50名。

実施内容: 現在の職業に関する基本的項目(事業規模, 業種, 職種, 役職等), 大学等での学びに対する意欲, 高校生として・社会人としての「学び」に対する意識を問う項目。

手続き: 調査は平成29年11月～平成30年3月に実施した。工業高校を卒業後5年以上の社会人に対し、調査の内容について同意を得た上で回答を求めた。方法はweb上のアンケートサイトにアクセスし、情報端末上で回答するよう設定した。得られた回答に対し、選択項目等の集計、考察を行った。

#### 2.1.2 アンケート調査の結果と考察

結果の一部を表1, 表2に示す。工業高校卒業生は、社会に出た後、再度大学等の教育機関で学びたいと考えている割合が高いことが認められた。目的としては現在の仕事に関する先端的な学び、視野を広げたいといったことから、専門性、広い知見を獲得したいという思いが挙げられた。「土日祝日、長期休みでの開講」、「夜間での開講」を希望している者が多く、会社等で働きながら学ぶことを望んでいることが推察できる。また、科目履修や公開講座を利用した学び直しを希望する者が比較参考の全国調査と比べて高い結果も得られている。学ぶ際の障害としては、勤務時間の長さ、職場や上司の理解

などの回答が多く、現状では学び直しに対する企業内の理解が厳しいことが考えられる。

### 2.2.1 研究②：個別事例の面接調査

調査対象者：上記アンケート調査の協力者（工業高校卒業生の社会人）1名（A氏とする）

実施内容：アンケート調査を踏まえ、個別の事例として社会人としての学びに関するインタビューを実施

質問内容：働きながら大学に通うことの難しさ、高卒者と大卒者が歩むキャリアの違い等

手続き：研究①の調査の協力者（工業高校卒業の社会人）から1名を抽出し、面接調査を依頼した。調査日程は2018年11月17日。事前に質問内容を知らせ、半構造化面接法により実施した。また後日、メールでのやり取りを通して不足部分の補充を行った。

### 2.2.2 面接調査の結果及び考察

A氏は、当時企業内に開設された大学相当の教育課程を修了している。工業系の職種の者が大学での学びを望むことについては、最先端の学びはその技術の習得に加え、最終的には技術によりコスト削減が可能になる等、企業の競争に必要なためではないかという意見であった。またA氏自身のキャリアを一事例として、時代と共に変化する卒業後の学びの必要性を確認することができた。

## 4. まとめと今後の課題

以上、本研究では工業高校卒業生を対象に継続的な学びに対する意識を把握するため、学びに関するアンケート調査及び面接調査を行った。その結果、工業高校卒業生の継続的な学びに対する意識は、高校卒業生全体と比較して高く、大学等教育機関での学び直しに積極的な姿勢が見受けられた。理由として、高度化する技術への対応や職場での待遇改善及びコスト削減が挙げられた。一方で、社会人として働きながら学ぶことは現状難しく、労働時間の長さや職場の理解が不十分といった課題が挙げられた。

### 文献

1) 先導的・大学改革推進委託事業 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究報告書、イノベーション・デザイン&テクノロジー株式会社、2015

### 付記

調査にご協力頂いた卒業生の皆様には心よりお礼申し上げます。

また本研究は科研費17K18660「専門高校卒業生の継続的な学びの支援に関する研究」の助成を受け、日本工業技術教育学会のご支援も頂いていることについて、心よりお礼申し上げます。

表1 大学等への学び直しに対する意思の有無

問1 職業に必要な知識や能力を得るため、大学等においてさらに学びたいですか？	回答数 (N=50)	割合	比較参考 全国調査
大学等でさらに学びたい	20	40.0%	7.8%
大学等で学ぶ事に興味はある	8	16.0%	29.8%
今後大学等でさらに学びたいと思わない	22	44.0%	62.4%

※全国調査(2015)の被験者数は2000名

表2 大学等で学ぶ目的

問3 大学等でさらに学ぶ場合、何が目的ですか？(複数)	回答数 (N=28)	割合	比較参考 全国調査
現在の職務に直接必要な基礎的な知識を得ること	11	39.3%	27.3%
現在の職務における先端的な専門知識を得ること	23	82.1%	21.8%
現在の職務を支える広い知見・視野を得ること	24	85.7%	23.3%
現在とは違う職場・仕事に就くための準備をすること	6	21.4%	19.9%
現在もしくは別の職場へ復帰するための準備をすること	2	7.1%	7.4%
社外等の人的なネットワークを得ること	10	35.7%	12.6%
資格を取得できること	6	21.4%	37.2%
学位(大学卒の学歴)を取得できること	7	25.0%	19.1%
昇進や昇給できること	6	21.4%	5.3%
所属企業から受講を推薦されること	0	0.0%	1.6%
わからない	0	0.0%	11.8%

※全国調査(2015)の被験者数は752名